



平成25年度

第3回みみらんどセミナー

ことばシリーズ①

- ☆ 実施日時 ☆ 平成25年6月28日(金) 15:00~16:30
- ☆ テーマ ☆ 「聴覚障がい幼児(3歳~5歳)における言葉の指導及び教科指導へつなげる言葉の指導について」
- ☆ 講師 ☆ 筑波大学附属聴覚特別支援学校幼稚部教諭
桑原 美和子 先生

第3回みみらんどセミナーの概要をご報告します。

幼児期という言葉の指導と小学部での教科学習につながる言葉の指導は、決してかけ離れたものではありません。日本語には「話し言葉」と「書き言葉」がありますが、幼稚部段階では、まず聞いたり話したりといった「話し言葉」を大切に指導します。その中で、文字に触れることができるような環境を整え、子どもの興味・関心が書き言葉に広がっていくように配慮します。

幼児期という言葉の指導において、共に生活したり遊んだりしながら、具体的な経験を通して子どもの心にあることを言語化していくかかわりが重要です。さらに、言葉を使って言葉を説明できるようにすることで概念化され、幼児の理解が深まっていきます。そのための手立てとして、子どもの思いに合ったモデルを示し、口声模倣を促していくことも大切になります。また、教科学習を見据えて、伝える力や聞いて分かる力を伸ばすことは欠かせません。言葉を別の言葉に置き換えたり、簡単な言葉で説明されたりして分かる経験を重ねるとともに、相手の言ったことが分からなかったとき、自分の言ったことが伝わらなかったときどうするかといった、わかり合うために工夫する



力を付けることも必要になります。言葉の力を、幼稚部で十分につけることは、難しいことも多くありますが、小学部でも、今の子どもの姿をとらえ、生活言語と学習言語という両輪を大切に指導して行ってほしいと願っています。

参加者からは、「幼児の気持ちを大切にしながら、使える言葉を増やしていかなければならないと感じた。」「自分で考えて話す機会を確保するよう共通理解を図りたい。」等といった感想があり、充実したセミナーとなりました。

次回は、7月19日(金)「きこえシリーズ②『FM補聴システムを知ろう』~フォナック社製~」についてです。
尚、今回ご講演いただいた桑原先生には、7月26日(金)にも「聴覚障がいのあるこどもの発音指導」について、お話しいただく予定です。